

- 1 派遣期日 令和元年11月8日（金）
2 研修先 学校名 所沢市立清進小学校
所在地 埼玉県所沢市けやき台1-38-1
<http://www.tokorozawa-stm.ed.jp/seisin-eh/>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

研究主題：集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、
豊かに人とつながる特別活動の充実
～自らの思いを大切に、自己表現できる児童を目指して～

所沢市立清進小学校は、平成30年・31年度埼玉県特別活動研究会委託研究校、令和元年度所沢市学び創造アクティブプラン学校クリエイト研究委託校として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、豊かに人とつながる特別活動の充実」を研究主題とし、授業実践を中心とした研究を進めている。学校経営方針からも、学級活動を充実させ、児童の学級への参画意識を高め、授業の活性化を図るなど、児童の主体的な学習の取組みを重視していることが分かる。研究の手立てとして、以下の3点を挙げている。

- ① 自主的、実践的な集団生活を通して、課題解決や行事での成功経験を積み重ねることで、児童の学びに向かう力・人間性の涵養を目指す。
- ② 学級会の充実を通して、教員が児童理解を深め、指導力を向上させるとともに充実感を味わう。
- ③ (2)(3)の授業にも積極的に取り組んでいく。

以上のように、学級活動(1)を中心に話し合い活動に行い、副題にもあるように人との関わり方を大切にしながら自分の発表に重きをおき、合意形成を図るだけでなく、(2)(3)においても、解決方法を話し合ったり、自分のよさや成長にも気づかせたりしながら、意思決定することに力を入れている。それらの取組みの一つとして「清進小スタンダード」が挙げられる。低・中・高学年それぞれの発達段階に応じて、「議題提案カード」、「学級会ノート」、「計画委員作戦シート」を用いるもので、学級活動の進め方について学校全体で共通理解が図られていた。

(2) 視察校における授業の実践

① 第1学年 学級活動(1) 議題「もっとなかよくなる会をしよう」

運動会に向けてもっと仲良くなって頑張っていきたいという児童の思いを受けて議題を決定していた。発達段階に応じて、教師とともに司会を進めたり、板書したりしていた。児童の意欲が向上するよう、メダルを作るなどして出た意見の具体物を掲示して可視化したり、賛成・心配マークを顔マークにしたりなどの工夫が見られた。また、机は使用せずに椅子だけで丸くなるという学習形態をとっていた。

② 第2学年 学級活動(2) キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
題材名「食べ物のはたらきを知って何でも食べよう」

嫌いな野菜を残してしまう児童が多くいるという実態を踏まえ題材を設定していた。導入では食材カードや料理カードをたくさん用意し、児童が意欲的に取り組むことができるような工夫が見られた。さらに、展開で食べ物の3つのはたらきを知り、まとめて明日からの給食の食べ方を考えて発表するという、「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」という授業の流れを明確にしながら展開していた。

③ 第3学年 学級活動(1) 議題「にこにこなかよし会をしよう」

KJ法を用いて話し合い活動を行っていた。児童の意見を短冊に書き、黒板に掲示することで、意見ごとの比較や合意を明確に示すことができていた。また、短冊に残すことで一つ一つの意見を書き換えることがなく、振り返りで確認することができていた。

- ④ 第4学年 学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成
題材名「よりよい家庭学習をしよう」

自分で目標を立て、実践し、振り返るという行動パターンを習慣化するために、スモールステップで、なりたい自分になるための解決方法の話し合いをしていた。また、家庭学習に意欲的に取り組み、内容を深めていけるように、1週間の実践期間を設け、これから頑張っていきたいことを具体的に意思決定させていた。

- ⑤ 第5学年 学級活動(1) 議題「クラス旗のデザインを決めよう」

計画委員と教師が事前に話し合い、進行は計画委員が行い、司会2名、黒板記録2名、ノート記録1名で構成されていた。ほかの児童は机をコの字型に並べ、互いの顔を見ながら話し合っていた。クラス旗を作るのは今年度で3度目ということで、学級目標を踏まえて、デザインとどのような文言を入れるのかを考え、意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしながら決めていた。

- ⑥ 第6学年 学級活動(3)ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成
題材名「もうすぐ中学生」

今回、この学級の授業を中心に参観した。将来に向けて準備することの大切さと、中学校生活への希望をもって今後の学校生活を送ることができるようにすることを目指して題材を設定していた。課題の把握においては、中学校生活の「学習」「行事」「部活動」「新しい友達」の4つの項目について、楽しみと感ずるかというアンケート結果を提示し、実践への意欲を高めていた。



さらに、学級で作成した「やる木」を提示し、年度初めに自分でやろうと決めたことを実践して良かったことを想起できるように工夫していた。可能性への気づきの場面では、導入で示した4項目について、自分のできることを具体的に考えて学習カードに表し、意思決定に向けて話し合いを行っていた。3～4人で風車の隊形をとり、友達に助言したり、学習カードに書き加えたりしながら話し合った後、各グループの代表が発表していた。個人目標の意思決定の場面においては、自分の今までの活動を振り返り、明日からどのような活動をするか、4項目の中から1つ選んで「宣言カード」に記入し、意思決定させていた。その後、宣言タイムを設け、学級全体へ宣言し、「中学生に向けて」という掲示物に貼っていた。そして、今回決定した1つの取り組みが習慣化できたら、他の取り組みに宣言を再設定するというまとめに導いていた。

- ⑦ 特別支援学級 学級活動(1) 議題「じこしょうかいカードをつくろう」

他校の児童と仲良くなるために自己紹介カードを作って送りたいという児童の思いを受けて議題を決定していた。提案理由を絵や写真で提示し、視覚的に捉えやすくしたり、考えを事前に短冊に書いておき、自信をもって発表できるようにしたりという工夫が見られた。特に、提案理由を紙芝居のようなお話仕立てで提示したことが印象的だった。

(3) 分科会

視察校における様々な取り組みを通し、全国・学力学習状況調査の「学級会で学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めている」では、全国の平均より17ポイント上回る結果が出たそう。また、昨年の1学期に意見を出すことが苦手だった児童は、「3学期はたくさん話し合いができ、良い意見が思いつくようになった。」と自分の言葉で振り返ることができ、児童自身も成長を感じているとのことだった。

4 感想

- 教員も児童も学校全体が一丸となって学級活動を楽しんで行っている印象を受けた。友達の意見によく耳を傾けたり、活発に話し合いをしたりと、日々の実践の積み重ねを感じることができた。
- 各学級で学級旗や、1年間のあゆみなどを掲示している。これらは児童が作ったものであり、特別活動を通して、児童の声が日々の活動に生かされていると感じた。